

# 公立図書館における地域資料の現状と課題

## 地域の活性化へ向けて

相庭 瞳

図書館における地域資料とは、郷土や郷土人に関わる資料、地域行政資料のほか、更に地域に関わる情報を含む概念である。日本の公立図書館では古くから地域資料の収集を行っているが、近年の公立図書館における地域資料を用いた取り組みの例はわずかで、図書館情報学全体としても地域資料に関しては研究も一部に限られており、関心が薄い領域となっている現状がある。

現在各地方においては地域の活性化が急務となっており、こうした中で地域資料を活用した取り組みは地域の活性化の基盤となりうる可能性を持っていると考える。そこで本研究では地域資料の再評価を行うにあたり、その現状について、活用という面を中心に比較検討し、地域資料活動が地域の活性化に与える影響と今後の地域資料活動について考察を行った。

本研究では、文献調査と『地域資料に関する調査研究』のデータ分析の結果を基に、一般的な図書館における地域資料に対する認識の考察を行った。そして地域資料や地域に貢献する活動を積極的に行っている秋田県立図書館、小平市中央図書館、愛荘町立愛知川図書館の3館への訪問調査を通して地域資料利用の実践例を調査し、地域に対する影響について考察した。以上の分析結果を基に、地域資料の再評価と公立図書館における地域資料を用いた地域の活性化の展望についての検討を行った。

文献調査により、ここ数年の間でも地域資料に関する取り組みの実践例が紹介されており、現在でも地域資料に関わる活動を行っている図書館が存在しているということが分かった。また、データ分析によれば、地域資料の所蔵点数は一定数以上ある館が多いが、地域資料の広報活動を行っている館はわずかであった。以上のことから、ほとんどの図書館が地域資料も一定数保有しているにも関わらず、実際に地域資料の取り組みを積極的に行っている図書館は少数であるという現状が見えた。

訪問調査では、3館とも運営方針の中に地域資料に関する項目を立て、冊子形態の資料だけでなくポスターや写真などといったものも含む幅広い形態の地域資料を積極的に収集しているという事が分かった。また、レファレンスにおける地域資料の活用や既存の地域資料を用いた新しい資料の作成など、それぞれの図書館が蔵書構成や周辺の環境という独自の特徴を活かした地域資料活動を行っていた。各図書館は地域資料を活用した情報発信という形で地域の活性化に貢献していると考えられる。

以上のことから、地域資料を用いた取り組みは地域に対して少なからず影響を与えており、図書館による地域資料活動は地域住民への支援となり、地域の活性化に繋がっていく、と考えた。こうした地域資料活動を行っていく上では、図書館側から能動的に地域資料の収集を継続することが重要であり、そのために図書館員の地域に対する認識を高めていくことが課題となる。

(指導教員 白井哲哉)